

社報 御霊本宮

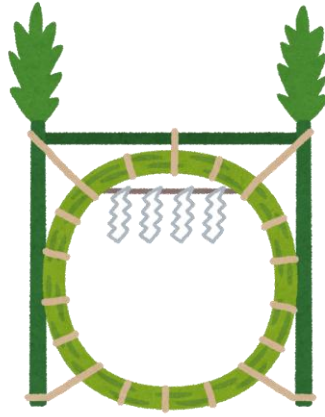
第80号

発行者
御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日
令和3年
6月15日

夏越大祓

茅の力



令和3年が始まって半年になろうとしていきます。多くの神社では、六月下旬から末日にかけて行われる夏越大祓、ことに茅の輪の準備がそろそろ行われる時期となりました。

茅の輪とは、チガヤと呼ばれるイネ科の植物を束ねて作った輪のことで、人々はこの輪をくぐることで穢れを祓うことができると信じられています。ここでいうチガヤは「茅」と書き、

一つの植物を指すのでなく、スゲヤス

スキなども含めた総称が「茅」です。

茅の葉の特徴としては表面がざらついていることです。強く握ったりすると手を傷つけてしまいます。このざらつきが、穢れを取り除いてくれると考えられたのかもしれませんが。

筑波大学の安藤邦廣博士によると、日本の土壌研究の面からスキが注目されているとのこと。

日本列島の火山灰に覆われた土は、スキの自生する「黒ボク土（黒くてホクホクしているところから名付けられた）」と「赤土」に大別されます。「黒ボク土」は農耕に適しています。主成分は火山灰と同じケイ素ですが、

黒色は炭素で、植物が燃やされない限り生じないものです。長年の野焼きによるものと考えられています。ここに樹木が生えると炭素が変化して「赤

土」になるのだそうです。しかし、スキが生えた草原では、スキが炭素を固着し「黒ボク土」になっていくというのです。

福島県の大飯原事故のあと、周辺はスキ野原となり、そこでは放射性セシウムが固着されていることが分かってきました。

農耕に適さない赤土を黒ボク土に変化させたり、放射性セシウムを固着したりするスキは、「浄化」するところが科学的に証明されてきています。古代の人が、このような科学的根拠をもって大祓に茅を用いたのでないとは思いますが、なにかしら茅の不思議な力に気付いていたのかもしれない。



宇智郡 狛犬めぐり
東阿田町 八幡神社



明治二十九年に奉納された、この狛犬の特徴はなんぞか、鬣たがみが耳を覆うように流れているのかはよく分かりません。この下の部分が空洞になっていることから、耳に穴が空いているのではなく、鬣が髪の毛が巻くように垂れ下がっているというふうに見るのがよさそうです。全身に毛けまん出紋もんという模様があります。獅子舞の胴幕の模様（唐獅子模様）です。犬ではなく獅子であることを強調したのでしょいか。尾は渦巻きになった毛のかたまりがびっしりで、他の神社の狛犬とは違った特徴がある狛犬です。

五條十八景を訪ねて

第二景 「高峰秋月」

群山ぐんざんいまだ此この山やまの宗むねきに似にず

山勢さんせい人ひと 小土峰しょうしほうと称しょうす

積雪せきせつ 千秋せんしゅう 好このんで扇あふぎをかかぐ

月間げっかん 天外てんがい 玉芙蓉ぎよくふよう

多くの山の中でこの山ほど尊い山はない。山の姿が富士山に似ているので人々は小富士と呼んでいる。雪を頂き扇をさかさまにしたようなこの山が、月に照らされ空高くそびえている姿はまったく富士のようだ。

晴れた日に、大川橋から東を見ると、天を衝くようにそびえる山が見えます。東吉野村の高見山（二二四八m）で、三重県境に位置します。昔は高角山、高水山などと呼ばれていました。現在は「関西のマッターホルン」の異名を持っています。



神武天皇

東征の際、
榊田川から

大和へと入

ったとする

説があり、

山頂にはこ

こに上つて

四方を見た

といわれる「国見岩」や、道案内を勤

めた八咫鳥を祀る高角神社がありま

す。

万葉集には「我妹子をいざ見の山

も高みかも 大和の見えぬ 国遠みか

も」と詠まれています。この歌は、持

統天皇の伊勢行幸に従った石上麻呂

の詠んだ一首です。



五條文化博物館から見た高見山

「わが妻をいざ見ようといういざ見の山は名ばかりで、大和はちつとも見えない。それだけ遠くへ来たということか。」

実際には伊勢の側から妻の姿など見えるわけではないのですが、家に残してきた妻を思つて詠うことで、遠い地へ来てしまった旅先の不安を和らげようとしたのかもしれませんが。

「いざ見の山」は高見山のことです、この時の行幸は伊賀を通り伊勢に出たから奈良（大和）方面の高見山を見たこととなります。

この歌には「稲を植える準備に入る前に行幸の車駕を道に入れては農民を疲弊させてしまうとして、中納言三輪朝臣高市麿がその冠位を返上してまで諫めたにもかかわらず聞き入れられなかった」と追記されています。持統天皇が臣下の反対を押し切つてまで伊勢の神の加護を得るために行幸を強行しなければならぬ理由は何だったのでしょうか。

八百万の神々

あまつひこねのみこと

天津日子根命

いくつひこねのみこと

活津日子根命

くまのくすびのみこと

熊野久須毗命

あまてらすおおかみ

天照大神と、弟の素戔嗚尊が誓約を

行なつた際に、天照大神の玉から生ま

れた五柱の神々の三番目から五番目

の神でいずれも男神とされています。

天津日子根は太陽の子という意味

があるといい、多くの氏族の祖といわ

れています。

活津日子根は活力や生命力を意味

するとされています。天津日子根命が

多くの氏族の祖神とされているのに

対して、この神は子孫となる氏族が記

載されていません。

久須毗は「奇し霊」（神秘的な神霊）

あるいは「奇し火」の意と考えられて

います。熊野は出雲の熊野大社（島根

県松江市）を指し、熊野久須毗命はその神とされています。

木花開耶姫神社 市杵島姫神社の 竣功祭を齋行

平成三十年九月の台風による倒木で、統神社の境内社二社（木花開耶姫神社・市杵島姫神社）が損壊してしまいました。このたび、須恵町の井之本

得良さんと寝屋川市の本木香吏さんのご厚志により、二社を再建することができ、六月六日に竣功祭を齋行致しました。社殿を祓清めたのち、二柱の神をそれぞれの御霊代に遷して社殿内に納めました。氏子崇敬者の皆様のおかげで再建できたことに感謝申し上げます。



本宮所蔵品

童子裸形木造

增高約

二〇cmの

裸体の童子像が二



体あります。どちらも男児ですが、腕が欠損し、表情は分かりません。

ただ、写真右の一体は、ふくよかな感じの体つきで、腕を上下しているような様子から元気な様子を表わしているように見えます。

これらの童子の木像が当社に所蔵されている詳細は不明です。理由としては、安産祈願や子どもの成長を願ったことなどが考えられます。当社の御祭神である井上内親王が安産の神であることから、そう推測できます。二体は、その状態から同時期に製作されたものと思われます。室町期の製作であるとも推測されていますが不明です。

夏越大祓

茅の輪神事を

齋行します

日時 令和三年六月二十八日（日）

午後三時開始

雨天決行（荒天時中止）

場所 御霊本宮拝殿

祭典 茅の輪神事による大祓

参加者 健康長寿祈願祭

受付 当日開始十五分前より

拝殿にて

参加費 一人五〇〇円

祈禱符、茅の輪守り授与

Instagram @goryohongu



Twitter @goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。

公式ホームページ

<http://goryojinja.or.jp>



夢か

うつつか

幻か

プロ野球、オリックスバファローズが交流戦で優勝しました。毎年、パ・リーグが強く、過去十六年間のうち十四年間はパ・リーグのチームが優勝しています。今年はソフトバンクの不調もあって、セ・リーグのチームが上位に入っていました。それもDeNAと中日というリーグでは下位に沈んでいたチームです。かくいう我がバファローズも、交流戦が始まる前はリーグ5位で4つの負け越しという例年並みの弱さを発揮していました。さて、交流戦優勝で浮かれているはいけません。強敵ぞろいのリーグ戦が再開されます。今年はソフトバンクや楽天戦は対等に戦っていますが、ロッテと日本ハムには苦戦を強いられています。現在、投手力も打線も好調なので、このまま突っ走ってもらいたいと思います。秋には京セラで日本シリーズを！

日本書紀にみる

十一代垂仁天皇(七)

三月十日、天照大神を豊相入姫命から離して、倭姫命に託されました。倭姫命は大神を鎮座申し上げるところを探し、宇陀の篠幡に行きました。さらに引返して近江国に入り、美濃をめぐって伊勢国に至りました。

そのとき天照大神が倭姫命に言われたのが、「伊勢国はしきりに波が打ち寄せる傍国(中心ではない国)の美しい国である。この国にいたいと思う」というものでした。そこで大神の言葉のままに、祠を伊勢国に建てられました。そして齋宮(齋王のいる宮)を五十鈴川のほとりに建てました。これを磯宮といっています。天照大神が初めて天より降りられたところですよ。

一説には、天皇は、倭姫命を依代として天照大神に差し上げられた。それで倭姫命は、天照大神を磯城の神木の本にお祀りしました。その後、神のお

告げにより、二十六年十月、甲子の日、伊勢国の渡遇宮にお移しました。

このとき、倭大国魂神が、穂積臣の先祖である大水口宿禰に乗り移って言われたのが、「最初、『天照大神は、全ての天原を治めよう。代々の天皇は、葦原中国の諸神を治め、私には自ら地主の神を治めるように』というこ

とであった。先皇の崇神天皇は神祀をお祭りなさったが、詳しくその根源を探らないで枝葉に走っておられた。それで天皇は命が短かった。今、汝は先皇の及ばなかったところを悔い、よくお祀りすれば 汝の命も永く天下も太平であろう」と言われました。

天皇はこの言葉を聞いて、誰に大倭大神を祀らせればよいのか、中臣連の祖である探湯主に仰せられて占わせました。そして、淳名城稚姫命が占いました。そこで、淳名城稚姫命に出ました。そこで、淳名城稚姫命に命じて、神地として穴磯邑に定め、大市の長岡の崎にお祀りしました。しかし、淳名城稚姫命は、すでに体が痩せ

弱っていて、お祀りすることができま

せんでした。それで、大倭直の祖である長尾市宿禰に命じて祀らせたとい

います。

二十六年秋八月三日、天皇は物部十千大連に、「たびたび使者を出雲に遣わして、その国の神宝を検めさせたが、はつきりと申す者もない。お前が出雲に行つて調べて来なさい」と言われ

ました。十千根大連は、神宝をよく調べてはつきりと報告しました。それで神宝を司ることになりました。

二十七年秋八月七日、神官に命じて、武器を神々にお供えすることの可否を占わせたら吉と出ました。そこで、弓矢と太刀を諸々の神社に奉納しました。さらに、神地、神戸(神の料田や神社の民戸)を定めて、時期を決めてお祭りさせました。武器を以て神祇を祭るといふことは、この時に始まったのです。

この年、屯倉(朝廷の直轄地)を来目邑にしました。(次号につづく)

万葉の花たち

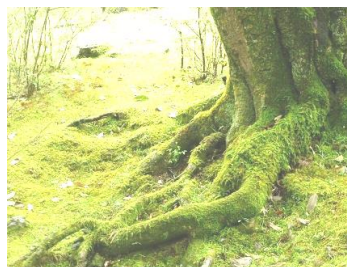
「こけ」(コケ)

何時の間も 神さびけるか 香山の
 銚杉がもとに 苔生すまでに

鴨君足人(巻三・二五九)

都が藤原京から平城京に遷ったあと、昔を偲んで詠んだ歌です。

「天の香具山



に生えている銚のような杉の根元に苔が生すほどの時が流れてしまったよ」

人の踏み入らなくなった香具山の様子を苔を通して表現し、「いつの間にか神さびける(神々しくなってしまう)」と悲しんでいます。人のいなくなった土地の寂しさは、特に当時の繁栄を知る者にとっては土地の神の力の衰退と感じられたのでしょうか。